



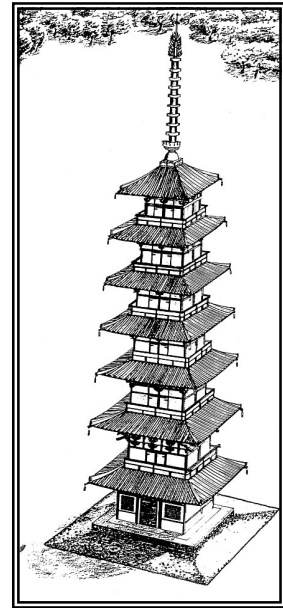
博物館学習シート（古代）

（平成 年 月 日 氏名 ）

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。

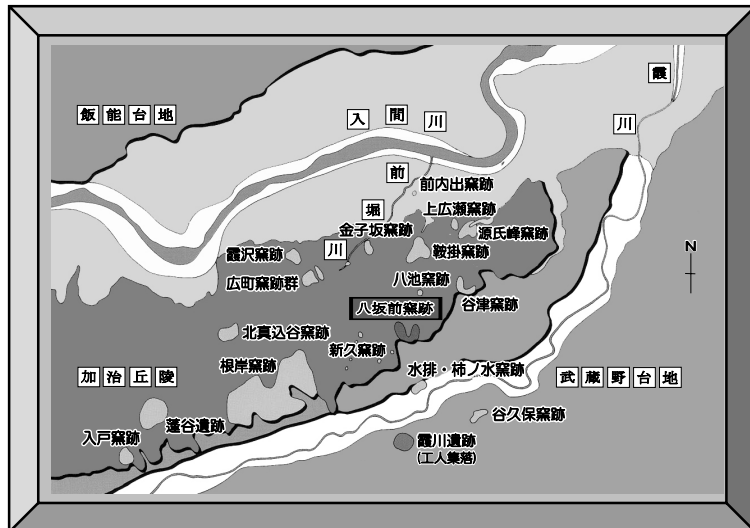
疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べて見ましょう。鉛筆と下敷きを用意しましょう。（ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。）

1 奈良・平安時代の瓦が展示されています。瓦には文字が刻まれています。この文字から何がわかりますか。



2 8世紀頃日本の各地に国分寺というお寺がつけられました。どのような目的で、このような大きなお寺がつけられたのでしょうか。

3 東金子窯跡分布図を見てください。窯跡が集中しているのはどのような場所でしょうか。地図の中からその場所の名前を見つけて、それがどんな地形の場所なのか、考えてみましょう。



また、どうしてこのような地形の場所に窯跡があると思いますか。

ちょっと一息

この写真は、何でしょう？

**平安時代に東金子で
焼かれた瓦です。**

この瓦は、今から約1200年前に表の絵に描かれているような、武蔵国分寺の七重塔を再建した時に使われたものです。



この瓦の**重さは何kg**？あると思いますか？

東金子の窯跡から武蔵の国分寺までの距離は？

東金子窯跡郡から武蔵国分寺までは**直線距離にして約20キロメートル**。それでも、県内にあった古代の窯跡郡の中で最も近い窯場でした。

瓦はどうやって運ばれたか？

瓦にはいくつか種類がありますが、**重いもので6kg、軽いものでも3.7kg**くらいあります。古代のいろいろな政治の仕組みなどが書かれている『延喜式』を見ると、それを1人7枚から12枚。平均42kgを運んだようです。人間と国分寺を結ぶような川はありませんから、おそらく歩いて運んだと考えられます。

古代の人は、42kgの瓦を、20km以上も歩いて運んだ

武蔵国分寺の七重塔の高さは？

武蔵国分寺まで東金子の窯場から人の背にのせて、たくさんの瓦が運ばれたことはわかりましたね。

では、この瓦はどのようにして、七重塔の屋根にのせたのでしょうか。

武蔵国分寺の七重塔が再建されたのは承和12年(845)でした。そして、この再建された**七重の塔の高さはなんと約60mあった**と思われます。こんなに高いところにどのようにあげたのか、実はまだ解明されていません。

古代の謎の一つですね。

見学を終えて

・博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか

・それはどの時代ですか

・印象に残った理由はなんですか

・見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか

ある

ない

・それはどのようなことですか